

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891100026		
法人名	株式会社 ケアホームなかお		
事業所名	グループホーム 香	ユニット名	
所在地	〒300-2505 茨城県常総市中妻町1023-2		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0891100026&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年11月16日	評価確定日	平成24年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔の絶えない生活環境を目指して」という、事業所の理念を基に明るい雰囲気の中で利用者さんの持てる力をだし自主性を持ち自分らしく自由に生活できる生活環境を作っています。
利用者様が家族と触れ合い季節を感じ楽しみのある生活が出来るよう様々な行事や外出活動を実施しています。また、地域交流会や運営推進会議等により地域の中の一家庭として交流をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は地域と日常的に交流を図り、利用者が自由に気持ち良くその人らしい生活ができるように支援している。
退院後、食事が摂れない状態で入居してきても、職員が一丸となって経口摂取ができるよう介護支援をし、6ヶ月後は自力で食事が摂れるようになったケースがある。
事業所では日課を決めてはいるが起床や就寝、入浴時間、余暇活動については利用者の選択で決定しており、利用者のはのびのびと生活している。
家族等には利用者の生活ぶりを職員が手書きで個別に作成して毎月報告をしており、家族等との関係を大切にしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域住民共に笑顔を絶やさない生活環境を目指して」という、事業所独自の理念を掲げている。その理念を会議の場等で共有し実際のケアの中でどう反映しているかを話し合っている。また、その文言を掲示することで日々確認している。	前回の外部評価結果を受けて理念を見直し、「地域住民と共に笑顔を絶やさない生活環境を目指して」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、玄関や居間、台所のドアに掲示している。 職員は職員会議で理念を共有し、日々のケアの中でどう反映しているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年行った地域交流会を10月に予定しており、地域の方々の協力を得ながらバザーや様々なイベントを予定しています。その他、月1回のイベントにも地域の方を招待し交流を図っています。また、個人的に地域の方が訪ねてくださり日常的に交流をしています。	事業所が開催する地域交流会では区長や民生委員、地域住民の協力を得てバザーや野菜の販売などを行っている。 月1回の事業所のバザーや納涼祭、ボランティアによる太鼓や三味線、琴などのイベント、幼稚園児による訪問に地域の人々を招待して交流している。 事業所は自治会に加入していないが清掃活動に参加しており、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年11月に介護相談会を実施し、認知症の人の理解や支援の方法の相談を受けました。また、日常的に介護相談という形で地域の人々に向けて活かしています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に1回、家族や区長、民生委員、市議会議員、市職員、事業所の委員で定期的開催しています。会議では事業所から利用者の生活の様子や運営状況などの報告を行うとともに、出席者間で意見交換をしています。会議で出た意見や助言を職員会議で報告するとともに、その内容を検討しサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族等や市職員、民生委員、区長、老人会の代表、事業所職員で開催している。 会議では利用者の生活状況や運営状況などを報告しているほか、出席者で意見交換をしている。 会議で出た意見や助言は職員会議で報告し、検討してサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者への電話や訪問の他、市担当者の来訪等を通じて情報交換したり助言を受けたりしながら日常的に交流し協力関係を築いている。年に数回開催される市内のグループホーム事業者連絡会に市担当者の参加を仰ぎ、他の事業者も交えて情報交換しあうとともに、運営についての助言を受けている。	管理者は市担当者に電話をしたり訪問をしているほか、市担当者の訪問を受けて連携し協力関係を築いている。 年4回開催される市主催のグループホーム協議会に出席し、市担当者や他事業所と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを契約書に明記するとともに、全職員が身体拘束の内容とその弊害について研修で理解している。玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいて、利用者様の様子から外出を察知した場合は職員が同行するなど利用者の気持ちに沿うよう支援をしている。	身体拘束や虐待問題について年間研修計画に組み入れ、研修を実施している。 職員は身体拘束の弊害を理解しており、見守りを徹底することで玄関やその他の出入り口を施錠しない支援に努め、利用者の外出を察知した場合は寄り添い同行している。 近隣住民に徘徊の状況を周知し、利用者が一人で外出した場合には連絡が得られるよう協力体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を開催し、高齢者虐待防止法を含めた虐待防止について学習し、日常的に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修しました。家族の方が関わりが持てない利用者様があった場合は市介護保険課等と連携し、支援していきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時など丁寧に分かり易く説明し、可能であれば本人を含めた複数の家族に説明し理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常のふれ合いの中から、家族からは来訪時に意見や要望を聞くよう努めているほか、意見箱を設置している。出た意見等は職員会議で話し合い、運営に反映させている。重要事項説明に苦情相談受付窓口を明記している。	玄関に意見箱を設置するとともに、家族等の来訪時に意見や要望を聴くよう努めている。重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。意見や要望は出し難い部分も多いので、把握しきれていない可能性もある。	意見や要望を出し難い家族等に配慮して無記名のアンケートを実施するなど意見等を汲みあげる工夫をし、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員が意見や提案をざっくばらんに話せる関係を築くとともに、定期的に話し合いの場を設け、職員から出た意見等を運営に反映させている。また個人面談をステップアップの一環として、職員一人一人に実施している。	代表者や管理者は日頃より何でも話せる雰囲気づくりに努め職員の意見を聞いている。月1回の会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させているが、出た意見等を記録に残すまでには至っていない。	会議で出た職員の意見や話し合った内容を記録に残すことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力の向上が認められた職員への処遇・人事を明確化し、賃金体系（時給・手当等）の人事制度の整備を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修においては、受講を斡旋し費用の扶助を行い機会を確保している。法人内研修として、隔月に勉強会を行いさらに毎月一回の会議においても勉強会を行っている。また、日々の業務内でも有資格者によるOJTによりトレーニングを積んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の見学・イベントや他事業所が開催する研修会に参加している。また、市の連絡会に参加したり、日常的に連絡を取り合うことで交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず自宅等に訪問、本人が話しやすい場所で面会し、本人の話を傾聴することで本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に必ず訪問調査を行い、書面で基本運営方針を説明した上で、家族の不安や要望等を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まづ必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に対しグループホームのサービスは選択肢の一つということも含め説明を行い、本人担当のケアマネジャーや相談員とも相談しながら、その時の本人にとって最適なサービス利用が出来るように心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において買い物や調理、洗濯や掃除などを、利用者本人が出来ること本人のペースで職員や他の利用者と協力しながら行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度必ず、一か月の様子を書いた手紙をご家族様に送付し、生活の様子などを報告している。それにより常に家族と本人の状況を共有し面会時等で話し合い、協力して本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に出る機会を多く作り、本人の行きたい場所や馴染みの場所に外出している。本人の親せき、友人等が面会に来て下さるように連絡等を取っている。また、自宅への一時帰宅が出来るように支援も行っている。	利用者は日常の買い物に職員と一緒に出かけ、商店の人と馴染みの関係を築いている。 職員は利用者が希望する場所に出かけられるよう、利用者の自宅や神社参拝、行きつけの理・美容院に同行している。 利用者が暮らしていた近所の方が来訪するなど、馴染みの人との関係は良好である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を把握し、食事の席の配置や余暇活動において配慮させていただいている。また、入居者全員で参加する余暇活動や外出活動の機会を設け、全員が参加出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の利用者の中には引き続き隣接するディサービスを利用していている方もいて、サービス外の交流を図るとともに、必要であれば相談・支援できる体制を取っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に本人、家族から生活の希望、意向を聞き、入所してからもホームでのその時の希望や意向を定期的に把握するように努め実際の生活の中に反映するようにしている。	入居時に利用者と家族等の意向を聴くように努めるとともに、困難な場合は利用後の生活から把握するように努めている。 職員は利用者との買い物時に昔の暮らしぶりを聴くなどで思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の調査、面接において、本人や家族から生活歴等の話を聞きフェースシートやアセスメントシートにまとめている。また、実施に自宅を訪問することで生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に一日の生活状況や本人の言動等をチェックしている。また、健康状態の記録や排泄、食事等の記録をとり、本人の生活状況や能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の本人や家族の意見や希望を把握するために定期的に意見を聞き、それをもとに介護員等でケース会議を開催し介護計画に反映できるように見直しを行っている。	介護計画は家族等や職員の意見を取り入れて3ヶ月毎に見直すとともに、毎月モニタリングを実施している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録の他に業務日誌や職員ノートにも記入し、全職員が利用者の情報を共有し、介護計画の見直し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するディサービスと共同で余暇活動やイベント活動を行う等協力体制を取っている。また、受診の送迎や、付き添い等も状況に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを招いての余暇活動や保育園への訪問活動など地域との関わりを楽しみの一つとして、地域資源の把握、活用に努めている。また、民生員の訪問もあり地域で安心して生活出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望や医療的ニーズにより主治医を決めていただいている。各病院と連携をとりつき1～2回の往診や必要な場合は受診支援も行い、適切な医療を受けられるようにしている。	協力医療機関の医師による訪問診療の受診を月1回から2回支援しているほか、利用者や家族等の希望にそったかかりつけ医への通院も支援している。 受診結果はその都度家族等に電話や手紙で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員に情報や気づきを報告し、利用者が適切な看護を受けられるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人の情報を病院に報告している。また、入院中も出来るだけ頻回に面会に行き、常時家族や医師、医療相談員と情報交換をし、早期退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で本人・家族に対して看取りの同意書によりホームで出来ること、出来ないことを説明し、同意書にも記入していただいている。また、なるべく早い段階で本人、家族、担当の医師と話し合い重度化した場合や終末期についての方針を共有し支援を行っている。	契約時に利用者や家族等に事業所の看取りの指針を説明し同意を得ている。現在看取りの対象者はいないが、職員は看取りの対応指針を確認しており、看取りに向けて家族等と話し合い、協力医療機関とともに支援する取り組みを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防所主催の救命救急の講習会を開催、学習している。また、AEDを設置し、その使い方についても消防署から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域住民とともに避難訓練を行っている。また、災害時協力者として地域住民の方に協力を得ていて、実際の地震の際には消防団の方をはじめ地域の方が駆けつけてくださいました。さらに、食料や飲料水、懐中電灯等の非常災害用の物品も用意している。	消防署立会いのもと近隣住民の協力を得て避難訓練を実施しているほか、夜間想定避難訓練や業者による防災設備点検を実施している。スプリンクラーを設置している。職員は避難訓練の前日や当日に近隣住民を訪問し避難訓練への参加や協力を依頼しており、私道を避難経路として使用できるよう承諾を得ている。避難訓練実施記録に避難の状況やかかった時間、反省点などを明記して次回の訓練につなげている。乾パンや米60人分、水、ランタンなどを備蓄し、近隣住民の避難施設として市に指定されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先駆者として尊敬するとともに、一人一人の人格を尊重し温かみのある言葉使いや声かけ、対応を心がけている。	職員は日常生活の中で言葉遣いに留意し、利用者一人ひとりの気持ちを尊重した支援をしている。 写真は家族等の承諾を得て掲載している。 個人ファイルは事務室にある階段下収納の鍵がかかる書棚に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活にすべてにおいて、まず本人の希望を聞き日常生活の支援を行っている。また、本人の希望や思いの表出を見逃さないように心がけている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きて夜寝ること以外は本人のペースで自由に過ごしてもらっている。起床、就寝の時間も本人の自由な時間である。日中の過ごし方も、余暇活動等の提案はさせていただいているが、あくまでも本人の決定により過ごしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣等の支援が必要な利用者様でも、本人の希望や嗜好による身だしなみやおしゃれを出来るように支援している。本人の好みの化粧品を使用し化粧を行っている利用者様もいる。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は必ず利用者が参加し、献立を決めている。また、利用者も栽培を手伝っている畑の野菜も食材として使用。調理の際、野菜の皮むき等の準備や食器洗い、食器拭き等は利用者の毎日の日課となっている。	職員は利用者とともに献立を考えたり、食材の買い出しをしている。 利用者はできる範囲で職員と一緒に食事の準備や配膳、下膳をしている。 職員は利用者の好みを聴いて行事食や外食を支援しており、利用者の楽しみとなっている。 職員は自家菜園で収穫した野菜を食事に取り入れたり、利用者から出身地の郷土料理を教えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取量を毎食、時間ごとに記録するとともに健康状態も把握し、それをもとに一日の中でも食事、水分量やメニュー、食事形態の変更を行い、食事、栄養、水分量が確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりがそれぞれの方法で口腔ケアが行えるように環境整備、声かけを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを排泄チェック表に記入し把握することで、トイレへの声かけ、誘導を行い、日中においては入所前オムツ対応だった方を含め全員がトイレで排泄している。また、排泄の失敗も減っていてリハビリパンツ着用の利用者が布パンツに戻る事が出来た。	職員は利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導や声かけをし、トイレで排泄ができるよう支援をしている。 利用者一人ひとりの状況に合わせた支援をすることにより、リハビリパンツから布パンツに改善したり、徘徊が落ち着いたら失禁もなくなったというケースがある。 職員は利用者のプライバシーに配慮した言葉かけに努め、利用者の羞恥心や不安の軽減につなげている。 失禁の時にすぐ対応できるよう、使わなくなった炊飯器で蒸しタオルを保温している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に排便を促す野菜を多く食事メニューの中に取り入れ、水分も果物、ゼリー等を提供している。また、日常生活を活動的に生活できるようにし、その他軽体操や散歩など運動を行うことでも便秘を防止している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間を決めることなく、個人個人が入浴したい時間に入浴できるように努めている。夜に入浴を希望している利用者にも対応できるように職員の人員配置の工夫も行えるようにしている。	利用者の希望にそったタイミングでの入浴やシャワー浴などで週2回入浴支援をしている。同性介助を取り入れ、反抗的な態度で入浴していた利用者が穏やかに入浴を楽しむようになったケースもある。 入浴を拒む利用者には強要せず言葉かけに工夫をしたり、清拭やシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は基本的に個人個人の生活パターンに合わせている。日中に休息が必要な方や希望している方には、活動性が無くならないように心がけながら休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の処方箋を確認し、更にその効果、服用方法、副作用も医師や薬剤師から説明を受けて全員が共有している。また、定期的に症状の変化を報告してる。服用前に職員が処方箋により本人に手渡し、服薬を確認しさらにチェック表により確認を行い、コンプライアンスを維持している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や嗜好、能力から個人にあった家事等の役割や余暇活動を提案している。また、実際に活動したことを集計し、本人が何を楽しみにしているか、何が得意なのか、本当に張り合いや楽しみを感じてくれているのか、職員全員で認識し話し合い支援につなげている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	買い物や近隣への散歩へ日常的に 行っている。また、月に数回イベン トとして季節の花を見に行く等、外 出をしている。また、個人から行き たい場所を聞き家族の協力を得て外 出出来るように努めている。	事業所周辺を利用者のペースで散歩するこ とを日課としている。 利用者の希望にそってドライブなどの個別対 応をしている。 月1回近隣の公園や神社に四季折々の花を見 に出かけている。 歩行困難な利用者でも出かけられるようにリ フト車を使用し、利用者全員で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	個人の能力により額は違うが、それ ぞれ個人でお金を管理している。ま た、それが難しい方には職員が管理 しているが本人が自由に使えるよう にし、自分のお金を持って使ってい るとい認識を持てるように支援し ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	家族や大切な人が電話対応が可能な 時間をあらかじめ相談しておき、本 人が希望した時は電話出来るよう に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	廊下やリビングは車いすでも自由に 行動できる広さを確保している。リ ビングには畳スペースやソファなど 個人個人がくつろげるスペースを 確保している。また、季節の花や飾 り等により季節を感じていただい ている。	陽あたりの良い居間には畳敷きのスペースが あり、炬燵やソファが設置され利用者はテレ ビを見て過ごしており、居心地のよい場所 になっている。 廊下は幅が広く、ボール蹴りなどのレクリ エーションができる空間になっている。 居間や廊下には利用者が制作した手作りの貼 り絵や習字の作品、季節の花が飾られている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、畳スペース等で団欒したり、独りで過ごしたりそれぞれ過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等の配置は本人と家族に決めていただいている。また、居室の家具や物品などは、出来るだけ本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂いている。	居室は畳の和室とフローリングの洋室があり、ベッドでも布団でも利用者の希望にそって使用することができる。 利用者は今まで使っていたテレビや鏡台、小タンス、位牌などを持ち込んだり、家族と一緒に取った写真を飾ったり、花を活けて居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は車いすで自由に行動できる様に広いスペースを取っている。廊下やトイレ、浴室等に手すりが付いていて、なるべく自立、安全に生活できる様にしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム香

作成日 平成24年5月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	意見や要望を出し難い家族等に配慮して無記名のアンケートを実施する等で意見等を汲みあげる工夫をし、出た意見等を運営に反映させることを期待する。	年に最低1回は家族に無記名でのアンケートを実施し意見を運営に反映する。ご家族様の忌憚のない意見をくみ取り運営に反映していく。	24年1月に第1回目のアンケートを実施しました。結果、ご家族悩み等もあり相談される方がありました。今回は3名の回答でしたが、すべてのご家族様から意見が聞けるようアンケートの方法や内容を工夫していく。	1年
2	11	会議で出た職員の意見や話し合った内容を記録に残すことを期待する。	会議の記録は大切なことであり、正確に記録に残し運営や今後のサービスの内容の改善に反映していく。	会議の時は毎回、書記を決め会議の内容を記録する。会議の結果を再検討しスタッフのスキルアップに役立てる。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。